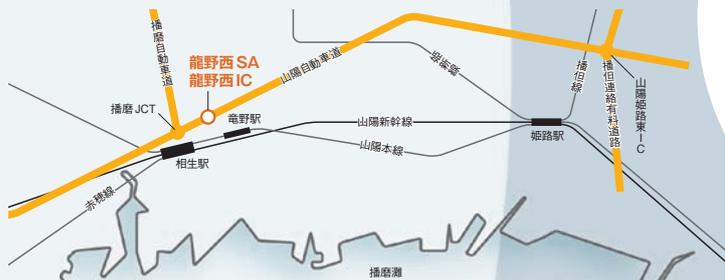


日本一トイレのきれいな サービスエリア



学生が行く今月の
土木日本一

進化するトイレを体感！



DATA: 6

龍野西SA

日本一のトイレデータ：便器数

男子便所 小便器14基、大便器6基

女子便所 便器28基

面積 363㎡

4C+1Eに取り組み中。意味するところは Clear, Clean, Comfortable, Charming,そして Ecology.

龍野西SAへ
姫路駅から車でおよそ30分。龍野西SAのある兵庫県たつの市は、童謡「赤とんぼ」の作詞家である三木露風生誕の地である。そこから赤とんぼのモチーフメントが電灯や遊具などさまざまなくところさりげなく配置されている。ちよつとお茶目なSAだ。車を降りてわれわれ学生班が向かった先は、古くからある日本家屋のようなトイレ。自動ドア(これ



写真1 太陽光発電システム

トイレ、それは誰もが毎日利用するものである。高速道路においてトイレを利用できる施設といえばサービスエリア(以下、SA)にほかならない。最近では、そんなSAのトイレが進化しているようだ。そこで、「エコ」で「キレイ」なトイレを目指し、自然エネルギーの活用という国内の高速道路では日本初の試みを行っている龍野西SAにお邪魔した！ トイレの使用エネルギーを100%自然エネルギーでまかなうことが目標だという。いったいどのようなトイレなのか…。

冬場でも寒くない(ー)を通ってまずは女子トイレへ。

エコな女子トイレ

トイレ内は照明の色味で温かみのある印象だ。まずは段差のないつくりとなっている個室へと足を踏み入れた。トイレは約8割が洋式トイレで、すべて洗浄器付き便座である。このトイレは人感センサーによって、人の気配を察知すると瞬時に便座を温めてくれる。冬場は特に幸せを与えてくれる。消費電力は便座を必要などときのみ温めることにより、従来のタイプと比較して約4分の

写真2 エコ給湯器





写真4 高級感漂うパウダールーム

トイレと切っても切り離せない関係にあるもの、そう、それは臭気である。臭気を軽減するための換気扇は常にフル稼働：なのかと思いきや、そうでもないらしい。臭気の種類に応じて換気を自動的に行ってくれる、インバータ換気扇というものを採用し



写真3 常にクリーンな大便器・小便器

1となったそうだ。この便座、壁のため宙に浮いた状態で設置されている。そのおかげで床の隅々まで掃除をすることができ、

衛生面も抜かりない。個室も広々とした印象を受けた。

賢い男子トイレ

今回は、当たり前ではあるが女性である筆者は普段決して立ち入ることのない男子トイレに潜入した！ まず目に止まったのは小便器。洗練された印象を受けるこの小便器、優秀なことに小便の量によってそれを流す水の量を自動調節してくれる。トイレが自動で節水を行ってくれる賢い小便器なのだ。

さらにこんなところにも

次にトイレを出て一般には立ち入ることのできないバックヤードを案内してもらった。ここには太陽熱温水器&エコ給湯器があり、この二つの給湯システムにより洗浄器付き便座や洗面台で使用する温水を供給している。従来の電気でお湯を沸かす方法と比較すると、消費電力は約3分の1となったそうである。さらに進むとそこには雨水タンクが！ 屋根上に降った雨水を貯水、浄化して女子トイレの洗浄水として利用している。この雨水利用により年間約700t（一般家庭で約2



写真5 トイレ内は明るく清潔な雰囲気

ているのだ。また、トイレ内の照明はLEDを導入し、少ない電力で明るい照明を実現している。

自然エネルギー

SAはトイレ休憩という言葉があるように、そこに寄る人のほとんどがトイレを利用すると言っても過言ではない。したがってトイレをきれいにする、という試みはSAの利用者を増やすという視点からも、とても理にかなっているように感じた。実際に利用者からの

世帯分の使用水量に相当の節水を実現したというのだから驚きだ！ 節水型便器と合わせると約25%の水量削減なのだとか。さらに案内してもらった先は併設されたインターチェンジ。高速道路を横断するという貴重な体験をしたどり着いた先には、100kW級のソーラーパネルが！ トイレの照明や洗浄器付き便座を温めるのに利用される電力はここから供給されているのだ。これまでに紹介してきた人感センサー、LED照明、インバータ換気扇によって節電を実現し、トイレ使用総電力量の約90%をこの太陽光発電によってまかなっているのだ。

SAはトイレ休憩という言葉があるように、そこに寄る人のほとんどがトイレを利用すると言っても過言ではない。したがってトイレをきれいにする、という試みはSAの利用者を増やすという視点からも、とても理にかなっているように感じた。実際に利用者からの

インフラとしてのトイレ

SAはトイレ休憩という言葉があるように、そこに寄る人のほとんどがトイレを利用すると言っても過言ではない。したがってトイレをきれいにする、という試みはSAの利用者を増やすという視点からも、とても理にかなっているように感じた。実際に利用者からの

Column

SAのトイレに、ホテル並みの〇〇

今回感動したものの、それはパウダールーム!! 照明は明るく、エアコン完備。そこにはまるでホテルのような優雅さが漂っていた。リニューアルの際に男子トイレの一部が女子トイレのパウダールームとして生まれ変わったのだとか。これによってSAの滞在時間が増えること間違いなしである。

学生編集委員 杉江裕実

澁谷容子

(注1)2009年11月時点

反響も大変良いそうだ。また、このSAは一般道から、ドライバードけでなく、歩行者も施設を利用することができるようになっており、実際に取材中もそういった人たちをちらほら見かけた。散歩や子どもを遊ばせる場合でも利用されるSA。そういった利用者にとっても、「トイレがきれい」ということは重要なことではないだろうか。環境に優しいエネルギーをもつて生み出されるトイレ。この空間によってSAというインフラの価値が高められていると感じた。